

「只見 移住物語」

南郷トマト農家

【移住者のご紹介】

- ・お名前：伏見 ^{ふしみ まさひろ}正寛様 (52 歳)
- ・ご家族：伏見 ^{ふしみ ともえ}知恵様 (妻 49 歳)・ご長男 (小学校 5 年生)・正寛様のご両親
- ・いつ：平成 18 年 3 月
- ・どこから：東京都 板橋
- ・どこへ：只見町 大字 梁取
- ・いましていること：トマト農家
- ・まえにしていたこと：技術系 サラリーマン



伏見 正寛様、知恵様 ご夫妻 ご自宅前で

【始まり】

移住した時の年齢は 38 歳です。移住前は普通のサラリーマンでした。

サラリーマンとして、この年代は組織中で真ん中に当たり、だんだん技術系の仕事が出来なくなる立場になっていました。社内で開発と言った好きなことが出来なくなっていたのです。何か自分で物を作るのであれば会社を辞めようかと考えていました。

(正寛様)

【家族】

私への相談はありました。反対はしませんでした。色々と考えたら不安になりますし、家族として夫と一緒に進むことを考えていました。私の両親からは「あそこは雪の多いところだよ」と言われましたが、反対はありませんでした。(知恵様)

私は、いま私の両親と一緒に暮らしていますが、初めはトマト農家になることについて反対していました。(正寛様)

【準備】

自立して自分で何かをしようと考えたときに、幾つか選択肢はあり、その中に「農家」がありました。ただ農家と言っても果物や野菜といった種類がありますので、何件か見学をしました。自分で自立して施設農業をするのであれば、最初の自己投資にはお金がかかります。その点では只見町の助成が整っていたのでトマトを選び、トマト農家になりました。

移住先を探すために、東京で開催されているセミナー、有楽町や池袋で開催された就農セミナーなどに参加しました。福島県から担当の方が来ていて只見町を紹介されたのがスタートです。他にも山形県にも行きました。(正寛様)

長野の果樹も考えました。二人とも東北出身なのです。主人は福島県 浜通りの双葉町で、私は岩手県 水沢(現 奥州市)です。長野だと実家から遠くなってしまうので、なるべく実家の近くにしましようにと主人に言いました。(知恵様)

トマト農家になると決めてから面接がありました。落とすための面接ではなく「トマト農家」になる覚悟というか、しっかりとした気持ちを持っているかどうか確認するための面接だったと思います。(正寛様)

最初の家は、役場の方に探してもらい、梁取に住みました。自分の家を建てる際に、仮住まいへ引っ越しましたが、その家も梁取にあり、居住家屋はすべて梁取です。(正寛様)

【現在】

移住してから10年くらい冬の間は、スキー場でリフト係をしました。その後 大型特殊免許を取得し、ここ3年は除雪作業に従事しています。午前2:00頃に家を出て、午前7:00とか、8:00頃に帰ります。基本は夜中に出て、朝に帰る。昼は自由なのですが、大雪の時は、昼間に少し戻ってきて、またすぐに出て、帰るのは夕方になる事もあります。(正寛様)

年に数回ですけど、大雪の日には一日中 除雪しているのではと言うくらい忙しいことがあります。子供の冬休みだと、子供はお父さん子なので、遊んでほしくて昼も寝てられない。

(知恵様)

只見は雪がネックになっていて雪が降れば農業はできないので、トマト農家の方は夏と冬はまったく別のことをします。前もって冬は別の仕事をするという聞いていたので、移住してから自分で知り合いの方に聞くとか、集落の方から声を掛けてもらい、仕事を見つけました。(正寛様)

私は、午前中だけ老人施設の清掃パートをしています。(知恵様)

【変化】

移住して良かったと感じる事は、トマト農家として、思い通りにできているかは別ですが、やりがいを感じます。人が食べる物を作るという喜びを感じます。(正寛様)

夫は休みなく働いています。すごく働いていますね。東京なら土、日曜日が休みだったのですが、文句も言わず働いています。用事がないと休まないのです。例えば、子供の用事とか、医者に行くとかで、子供を医者に連れて行くため若松に行くときに一緒に休むと言った感じで、用事がないと休まないですね。家でぼーっとしていることはないですね。

(知恵様)

【将来】

どのような暮らしをしたいですかと言うと、特にこうなりたいと言うことはなく、体が健康で毎日きちんと働けることが望みです。規模を拡大するとか、人を雇って農業法人にすると言うことは考えていません。(正寛様)



トマト苗の準備作業

【不便】

こちらに来て、雪に慣れるまで、どう対処するのか戸惑いました。一晩で1m近く降られると、雪の扱い方がわかりませんでした。知らないのを簡単に考えていたようで、やはり除雪の機械を持つとか、人を頼まないと生活できないのだなど、初めての年に思いました。

(正寛様)

【健康】

早寝、早起きです。(正寛様)

【アドバイス】

移住した当初は、お金が必要になるので、ある程度は経済的に余裕があって、健康でないとつらいかもしれません。医療環境が都会ほど整っていないので大変だと思います。(正寛様)

眼科や皮膚科が遠くて大変でした。(知恵様)

トマト栽培の最初の頃は、どんなことがあるかわからないので、なかなか時間が取れませんでした。慣れてくると行く日を決めておいて、仕事の調整をしながら病院へ行くことができるようになりました。今はそれほど不便とは思っていません。(正寛様)

田舎に来たからといって、自分の好きなように暮らせるかというところではありません。やはり人付き合いは大切です。田舎に来たから、私は私の生活をする、閉じこもって好きにできるのだと思いつくと、地域に溶け込めずに孤立してしまいます。部落の行事や、普請(地域の共同作業)には参加しないと、ここに来た本当の意味、価値が分からなくなってしまいますね。(正寛様)

地域とのコミュニケーションを取ることは都会よりも大切なことになると思います。特に百姓をすれば、困ったときにお互いに助け合う「結」が残っているので、助けることもあれば、助けてもらうこともあります。(正寛様)

【生活】

皆さん、子供を大切にしてくれて、とても助かっています。(知恵様)

主人が趣味で和太鼓をしていて、それが地域に溶け込むことに役立った気がします。

(知恵様)

和太鼓の会はせんがくたいこ仙嶽太鼓といいます。雪まつりでも演奏しています。

もともとここに太鼓のチームがあったのですが、メンバーの年齢が高くなり活動を休んでいたものを、太鼓も揃っていたので、私が引き継ぎ活動しています。(正寛様)

【印象】

焼肉をする時に牛肉ではなくマトンを食べるのは面白いと思いました。(正寛様)

食べきれないくらい野菜を頂き、驚きました。(知恵様)

冬のイメージを暗く持たないで、大変ですけど明るく捉えてほしいです。スキー、スノーボードが好きな人なら、お金をかけることなくいくらでもできます。(正寛様)

南郷ではスノーボードをやりたくて通って来ているうちにトマト農家になった人が多いです。私はこちらに来てスキーを覚えました。楽しいです。(知恵様)

2020年6月15日 ご自宅にてインタビュー

インタビュアー 移住コーディネーター 生天目 博